

## 投資事業評価調書（継続）

部課室名	農林水産部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 松浦 猛 (副課長 太野垣 賢治)	内線	4003 (4016)
------	---------------------	---------------------	-------------------------	----	----------------

事業種目	農道整備	事業名	事業区間		総事業費		約8億円
		一般農道整備事業	高山入野地区	内用地補償費	約1.48億円		
所在地			事業採択年度	着工年度	完成予定年度	進捗率 (内用補進捗率)	
津名郡一宮町高山～入野			H6	H6	H20	69% (66%)	
事業目的			事業内容				
<p>本農道は、入野・山田・高山地域の農地と集荷出施設、市場間の輸送経路を短縮し、農産物の流通を合理化して農業経営の安定を図る。</p> <p>併せて、農村地域の道路として生活環境の整備を図る。</p>			<p>農道新設 延長 1,927m [残事業量 484m] 受益面積 121ha            期 全幅 7.0m 車道幅員 2.75m × 2車線            期 全幅 6.0m 車道幅員 5.0m            計画日交通量 725台 (農業 406台 農業外 319台)            延長 工期 進捗率            期地区 L=1,443m H6～H16 92%            期地区 L= 484m (H17～H20) -            工事費の負担割合 (国: 45%、県: 55%)</p>				
進捗状況			<p>本地区は、H12に国の農道整備事業総点検により、2分割で実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>期地区は、ほ場整備と同時施工した区間 (L=1,043m) をH13に供用開始した。残りの区間 (L=400m) は、公図訂正や境界確認に時間を要したために用地買収が遅延していたが、H15に用地買収を完了し、H16に工事完了予定。</li> <li>期地区は、期地区完了後のH17からH20に実施予定。</li> </ul>				
評価視点			評価結果の説明				
(1) 必要性			<p>本農道の受益地は、周辺地域で初めて本格的なほ場整備事業を実施した営農意欲の非常に高い地域であり、米・玉ねぎ・菊・みかんを主体とした農業が営まれている。しかし、現況輸送経路は幅員狭小で、見通しも悪いため、不効率で危険な輸送を行っており、早期全線開通の必要性が益々高まっている。</p> <p>本農道は、地域の基幹的県道と県道を結ぶ重要路線としての機能を併せ持っており、未施行区間の完成により、農産物輸送の効率化、安全性の向上及び農村地域の生活環境改善が図られることから事業の継続が必要である。</p> <p>また、未施行区間については、農道としての利用形態や周辺道路の整備状況等を勘案して、事業計画を見直し、合理化農道 (全幅 6.0m、車道幅員 5.0m) として整備を行う予定である。</p>				
(2) 有効性・効率性			<p>地域住民は、農業生産面・生活面双方から本事業の早期完成を熱望し、事業実施に積極的に協力しており、早期の完成が望まれる。</p> <p>費用便益比 B/C = 1.19であり、事業としての効果が期待できる。</p>				
(3) 環境適合性			<p>地域の自然環境と景観の保全を考慮し、在来種を主体とした法面植生工事により、生態系の早期回復を目指している。</p>				
(4) 優先性			<p>未施工区間の期地区は、期地区に両側を挟まれた位置関係にあり、期区間が完成して道路の連続性が保たれるため、地域の基幹農道として全線開通が必要不可欠である。</p>				
再評価の結果	継続	左の理由	上記の理由により継続が妥当である。				